

令和 4 年 11 月 8 日

貝塚市議会議長 藪内留治殿

第 84 回全国都市問題会議報告書

大阪維新の会

樽谷庄道

<https://www.city.nagasaki.lg.jp/syokai/730000/732000/p037968.html>

https://www.city.nagasaki.lg.jp/syokai/730000/732000/p037968_d/fil/dai84kai_chirashi.pdf

主催：全国市長会、(公財)後藤・安田記念東京都市研究所、(公財)日本都市センター、長崎市

協賛：(公財)全国市長会館

開催期日：令和 4 年 10 月 13 日(木)・14 日(金)

会場：出島メッセ長崎 (JR 長崎駅西口前)

議題：個性を活かして『選ばれる』まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～

日程

《第 1 日》10 月 13 日(木)

9:30 開会式

9:50 基調講演 (株)ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼 CEO 高田 旭人氏

11:00 主報告 長崎県長崎市市長 田上 富久氏

13:30 一般報告 島根県立大学地域政策学部准教授 田中 輝美氏

14:50 一般報告 山形県山形市長 佐藤 孝弘氏

15:50 一般報告 (一社)地域力創造デザインセンター代表理事 高尾 忠志氏

17:00 終了

《第2日》 10月14日(金)

9:30 パネルディスカッション

[コーディネーター]

東京都立大学法学部教授 大杉 覚氏

[パネリスト]

ゆとり研究所所長 野口智子氏

山梨大学生命環境学部教授 田中 敦

NPO 法人長崎コンプラドール理事長 桐野耕一氏

岐阜県飛騨市長 都竹淳也氏

兵庫県伊丹市長 藤原保幸氏

11:50 閉会式

株式会社ジャパネットホールディングス高田旭人代表取締役社長兼 CEO

「民間主導の地域創生の重要性」と題した基調講演

ジャパネットタカタは通信販売のイメージがあるが、プロサッカークラブの運営や地域創生に取り組む。

民間企業が取り組む地域への貢献。

稼ぐ、を主観に置いた地域創生。

公平性を重視する行政とは違うサービスの差別化で経済を回しながら幸福度もアップ。

将来的には長崎から地方創生の成功例として貢献したい。

田上長崎市長が「長崎市の魅力あるまちづくり」と題して主報告を行った。

長崎ならではの住みやすさ、居心地の良さ、歴史的な交流により栄えたまちとして、21世紀の交流都市へ。

創造することで新たな価値を生み出す。

島根県立大学地域政策学部田中輝美准教授が「都市の新たな魅力と関係人口」と題して一般報告を行った。

関係人口とは、移住した定住人口でもなく、観光に来た交流人口でもない、地域と多様に関わる人々を指す言葉。

他地域から週末に集まる週末住人が増える取り組みを紹介。
ふるさとを持っていない人たちである「ふるさと難民」が集う地域作り。

佐藤・山形市長が「ビジョンを活かしたまちづくり～『選ばれる山形市』を目指して～」と題して一般報告を行った。

選ばれるまちとなるため「健康医療先進都市」と「文化創造都市」の2つが施策。

総合病院が多く立地し、人口一人当たりの診療数が多い。

山形大学医学部では、次世代型重粒子線がん治療など最先端の医療を提供。

また文化創造都市では、30年以上前に市民の手づくりによる山形国際ドキュメンタリー映画祭を紹介。

都市ブランドの向上と持続可能なまちづくりを目指しています。

(一社)地域力創造デザインセンター高尾忠志代表理事『交流の産業化』を支える景観まちづくり～長崎市景観専門監の取り組み～』と題して一般報告を行った。

高尾忠志は、市の公共事業全てを対象として景観デザインの指導・管理を行いながら、職員の人材育成を行う市長特命長崎市景観専門監を務め、

長崎市長のビジョンを実現するため多岐にわたる取り組みをする。

2日目

東京都立大学法学部教授の大杉覚氏をコーディネーターとして、

都竹・飛騨市長

飛騨市は人口22700人の過疎地、高齢化率は約40%。

「飛騨市ファンクラブ」を設立。

飛騨市を訪れる人々を拡大し、関係人口を増やす施策を推進。

藤原・伊丹市長

日本酒をメインテーマにしてミュージアムや歴史的な造り酒屋などを整備。

伊丹のにぎわい創出に取り組み、何度も訪れたくなるまちの創出。

ゆとり研究所野口智子所長

「ひとが人を磨き、輝く人が人を呼ぶ」がテーマ。

自身に取り組んできた長崎県雲仙市の「雲仙人(くもせんじん)プロジェクト」の試みを発表。

山梨大学生命環境学部教授の田中敦氏

「ワーケーションの意味の拡張と変異」がテーマ。

ワーケーション誘致に力を入れている。

サテライトオフィスの誘致やコワーキングスペースの充実など、多様な働き方がライフスタイルとして進める。

NPO 法人長崎コンプラドール理事長桐野耕一氏

「ひとは人に会いに行く」がテーマ。

「まち歩き」を促進するため訪れる人々を市民がガイドする。

おもてなしの心で共感を得ることで、リピーターとなる。

続いてパネルディスカッションが行われた。

貝塚市の目指す「選ばれるまち」「誇れるまち」

の推進のためのヒントが多くある有意義で価値のある2日間であった。

本報告は、要点に主軸を置いた内容としました。